

卒論・修論・ゼミ報告書

平成 30 年 4 月 24 日

指導教員認印

1

|       |                                |      |         |    |       |
|-------|--------------------------------|------|---------|----|-------|
| 学科・専攻 | 情報システム工学                       | 学籍番号 | 1855005 | 氏名 | 小野田成晃 |
| 題目    | 特許情報収集による知財想像のための発見的価値創造の手法の開発 |      |         |    |       |

### 報告日までの取り組み

|           |          |   |
|-----------|----------|---|
| PDCA サイクル | 設定目標 (P) | A. NMF の理論的側面を理解し実際に使えるようにする<br>B. 特許情報プラットフォームからほしい値を取れるようにする<br>C. 再利用性、可読性がたかいプログラムを作れるようにする   |
|           | 取組内容 (D) | A. 論文を読む、python でミニデモを実装<br>B. どうやったら被引用件数、引用件数をとれるか調査 + 非同期でのリクエスト処理の実装<br>C. 書籍を読んで、ダック・タイピングとポリモーフィズムの復習   |
|           | 課題整理 (C) | A. 実際にでてくる出力結果が不透明であった<br>B1. 被引用件数は公式データには載っていないので自分で発見してデータベース化する必要あり<br>=>室蘭の論文ではそのように行われていた<br>B2. 特許データは膨大なので hadoop を用いて並列分散処理をしたほうがいいのか?<br>=>今のパソコンでも十分スペックが高いので PC ないのコアに分けるだけでいいか<br>C. オブジェクト指向を導入すべきところと導入すべきでない場合があることを再認識 |
|           | 改善方策 (A) | A. python で実装して出力結果を確認<br>B. 別で被引用件数をまとめているサイトがあったのでそこから拝借<br>C. 特になし   |

報告日

|                    |               |  |
|--------------------|---------------|--|
| やりたいことを<br>やるべきことを | コメント<br>(出席者) |  |
|                    | 備忘録<br>(自分)   |  |